

この子らと

令和7年6月号

命輝く子ども



わくわく鹿児島中央認定こども園



園長 川口公男

一人一人が大切な存在

一人一人が大切な存在という言葉は、大人の世界でも教育・保育施設でもとても重要な意味をもっています。

私たちは、日常の中でつい、一人一人が大切な存在であることを忘れてしまいがちです。

一人一人は、この地球上で大事な役割を果たすために宇宙から派遣された旅人であるとも言われています。

だれもが自分の役割を持ち、一隅を照らしています。例えば小さな言動でも、それが



誰かの心を温めたり、支えになったりしています。

忘れがちであるからこそ、一人一人を大切に感謝の心をもつことが大切だと思っています。

本園においても、保護者の皆様のご支援・ご協力に感謝するとともに一人一人の子どもを大切な存在として、教育・保育を進めることが重要なことと共通認識・共通実践してまいります。

「命というのは、たった一つだから大切にしないとは言わない。」

たった一つだから大切なのではなく、命というのは、驚くべき犠牲と努力によって、おとうさん、おかあさんそのまたおとうさん、おかあさんとながれてきたものだからです。

あなたもそうだけれども、あなたの隣の人もそうです。



わくわく認定こども園の子どもたち、保護者のみなさま、そしてまた職員一人一人が大切な存在です。

☆ 声やまなざしなど優しい心を全身で伝える本園職員でありたい

☆ 言葉、行動など自らの姿で学ばせる本園職員でありたい

“5月23日(金)早朝の職員室”

わたくしが数日、休みを取り、久しぶりに園の職員室で仕事をしていますと「園長先生、おはようございます。」とSくん。少し照れたような笑顔には、幼いながらも勇気を振り絞って入室したであろうと愛おしさでいっぱいになりました。

手には、おそらくおうちの近くで摘み取った草花がありました。少し恥ずかしそうに「園長先生、これ!」と手に持った草花を渡してくれました。「大丈夫?」「お大事に!」とタッチをして、早朝時に集まるこあら組に走り去っていきました。

Sくんのやさしいまなざしと温かい言葉と勇気が、わたくしの心の琴線をふるわせました。

「ありがとう」の花束をあなたに

仏教の教えに相衣相関(縁起)という言葉があります。人は必ず、だれかとのかかわりの中でしか生きていけないということです。

そうであるならば、それぞれの人が感謝の心をもってかかわりあっていくことで、ずいぶんとやわらかな世の中になるように思います。

感謝の心を表す言葉に「ありがとう」があります。その一声で周りを幸せにする不思議な魔法の言葉です。

投稿記事に「自分の両手から次のあなたの両手へと次々に「ありがとう」の花束を手渡していけば、それが大きな輪になって、幸せの花をわたしたちに咲かせてくれます。」とありました。

本園も、「ありがとう」の花束を輪を作り、子どもたちにも、保護者の皆様にも、職員にも幸せの花をいっぱい咲かせていこうと思っています。



梅雨晴 小きき菜園 覗く猫
青梅に 手をかけて寝る 蛙かな
梅雨晴れや ところどころに あり
の道 (作者 小林一茶等)

